

M兄弟

2021. 12. 15

以前、勤務していた梁川高校に、双子の男子生徒が入学してきた。ほどなくして、その一人の小学5・6年生のときの担任の先生が、家人だとわかった。もう一人も、同じ学年にいるわけだから、家人のことはわかっている。これも何かの縁なのかと思った。

二人は、毎日、電車で登校してきた。秋になり、生徒会役員になった。二人とも、家の近くの飲食店でアルバイトを始めた。二人が働き始めた店は隣同士である。そこは、我が家の生活圏でもある。どちらの店にも、以前から行っていた。

何とはなしに、その店に行ってみる。もしかしたらM君がいるかと思うと、なぜかちゃんと働いている。「よっ、がんばっているな」もう一方の店に行ってみる。ここでも、なぜかもう一人のM君に会う。「すっかり慣れたようだな」なぜか、毎回会える。これもまた縁なのか。

2年間、梁川高校に勤務し、転勤することとなった。M兄弟からお手紙をいただいた。「なんていい子たちなのだろう」しばし、泣かせていただいた。

その後、M兄弟はどうしているだろうと思っていたところ、封書がポストに入っていた。誰からだろうと見てみると、M兄弟からだった。一人は、生徒会長になっていた。もう一人は、数学で満点をとったそうである。弓道部の部長にもなっていた。そんな内容が、決して長くはない文面に書かれてあった。その行間からは、僕たちはがんばっていますよというメッセージが浮かんできた。生徒会長や弓道部にかかわる写真も添えられていた。美術の作品もあった。この二人は、美術が得意だった。

近況報告なのかもしれないが、「こんな高校生もいるんだ」と感心させられた。家人にも見せた。心から喜んでいた。そうであろう。自分の教え子である。小学生だった子が、高校生になり、こんなに立派に成長しているのである。教師冥利に尽きる。

二人で嬉しい封書を見せてもらった後に、遅い昼食というか早い夕食をとりに、M君の店に行った。アルバイトを続けているかもわからないし、会えるとは思っていなかった。席に着き、メニューを見ていると、店員さんがお水を運んできてくれた。M君だった。こちらは興奮気味に「今、手紙を読んできたばかりなんだよ。元気だったか。がんばっているようだな」などと、畳みかけるように話した。まさか会えるとは。よほどの縁があるらしい。

きっと今頃は、充実した高校生活を送っていることと思う。そのうち、また報告が届くかもしれない。楽しみである。今考えても不思議なのだが、何のゆかりもないと思っていた梁川の地で、思いもかけない出会いが次から次へとあった。人生、わからないものである。M兄弟の成長を、これからも家人と二人で見守っていきたい。